彷徨へる心のまま 昭 和

に 干 应 年

歌

る 心 のままに

簫々の闇 野は遙か去に 見返りの陵を登ればみかえ し日の一 面か 影げ

天めのとち 斯くある に星の飛ぶなり は 人 と にとけ 八の宿命、 汤 Ś か

光輝なき旧る の舞ふ砂丘薄れ じりし仕種は 7

忘^{ばうきゃく} 消え去りぬ名残の水際はないないのなどは の寄する汐音に は

陽ひ

癒え

て幸福は希望は

一づる華

に

叫ぶには余りに深く には余りに虚し

微 毛 風 せ の赤き血粉の赤き血粉の赤き血粉の赤きの赤きの に咲き出 かるから 潮よ

清が 燃え狂ふ情熱 例かっ 0 玉ま 散ち る 知な性が の 焰は

若き身ので 春まるさめ 相覧なる 苦べる も楡影つたふ じみ の旅が 裏に留い がを逝く. に頬を濡ら なり めて せば

痛^いま 夏の野に陽炎たてばっ もしき魂 の 疵[‡] 0

初な

夏

散り果\ 又燃えぬで 陵が を去る。 Ť 遊子の瞳 て悲哀を秘め

汐飛沫浴が 秋深か 小き磯にた び ・ 佇たず 彼ゕ 0

友もがき 月影が 寥々の孤杖を運ぶ 斯か Ž の誓が 故に千草ふみ に宿命解かん $\ddot{\nabla}$ し言葉 詩き Ĺ と

Ė

三春がとせ 0 絢ゥ 夢原も が始林影に

に時は流れ の 新 たな旅出 愛情と決意に ぬ

藤 池 露弘 田 基 君 君 作 作 詇 Ш̈́

伊